

3 情報発信・PR戦略検討事業

3.1 情報発信に向けたホームページ構築検討

『禅の里』まちづくりの取組を広く周知するため、情報発信ツールとして最も活用されているホームページの事例を整理するとともに、『禅の里』まちづくりの情報発信・PR に向けたホームページの構築検討を行った。

3.1.1 事例整理

1) 地域・観光情報提供に必要となる事項

旅行会社のアンケート調査結果を見ると、地域観光情報の提供においては、以下のような視点が求められている。

表 3.1 情報提供の視点

視点	情報内容
多種多様なニーズへ対応できるモデルコースの提供	具体的に「いつ」、「どこが」見どころか、どのように見てまわればよいのかわかるモデルコースの提供
インターネットならではの利点を生かした情報の提供	花や紅葉の見頃(3日後には見頃が過ぎる、来週が見頃など)、地元のお祭りやイベント、歴史など地元しか知らない情報、ガイドブックには掲載されていない旬で地元に着した情報の提供
赤ちゃん、幼児、子供にかかわる情報の提供	赤ちゃんや子供連れで気兼ねなくいける場所、食事、授乳施設やトイレ等の施設に関する情報
口コミ情報の提供	実際に行った方、知っている方の情報
行きたいと思わせる写真の提供	季節ごとや歴史ごとなど、地域の様々な顔を紹介できる写真
ホームページを訪れるメリットの提供	割引チケットの印刷など、ホームページを訪れるメリット
情報の探しやすさ	観光スポット等の具体の場所・行き方、情報提供のレイアウト

資料：JTB 観光情報ナビ「地域観光情報発信のあり方に関する7つのヒント」

インターネットによるアンケート調査結果 <http://jtbwallet.jp/report/>

3.1.2 ホームページ構築検討

1) 構築・運営

ホームページは、『禅の里』まちづくり実行委員会による構築・運営とすることを検討した。

表 3.2 運営内容・方法

運営内容		運営方法
情報の更新	コンテンツ収集	門前観光協会、各部会が主体となって収集
	コンテンツ制作	外部活用
	情報の更新	門前観光協会が主体となって更新
メンテナンス	定期保守・緊急時対応	外部活用

2) 提供情報

ホームページによる情報提供は、大きく観光情報の提供と『禅の里』まちづくり実行委員会の取り組みについて情報提供を行う。次ページに情報提供項目（案）を示す。

3) 構築方法と概算費用

無償のサーバ活用も考えられるが、独自ドメイン (<http://〇〇〇.jp>) の取得が困難な場合が多いこと、コンテンツ容量（ハードディスク容量）の制限等から、有償のレンタルサーバを活用し、ホームページの構築・運営を行う。

～レンタルサーバ活用～

- レンタルサーバ
月額 1000 円～2500 円／月（ハードディスク 10Gb～80Gb 程度）
- 独自ドメイン取得
月額 317 円／月（汎用 jp の場合 例えば <http://zennosato.jp>）

表 3.3 情報発信項目(案)

目的	提供情報項目		情報提供内容	提供方法			コンテンツ提供等		
	大項目	小項目		概要	地図	写真(動画)		ダウンロード	
来訪者へのPR	見る	みどころ、散策マップ	永平寺のみどころ 禅の里散策マップ 禅の里散策マップダウンロード	○永平寺及び門前周辺の歴史スポット、名所、由来等を示した散策スポットを地図上に表示、散策マップとしてダウンロード ○季節、散策時間、歴史等のテーマ毎に散策マップを作成 ・散策マップ(春版、夏版、秋版、冬版) ・散策マップ(1時間コース、3時間コース) ・散策マップ(〇〇時代編、歌碑散策編、言い伝え編)	○	—	○	門前観光協会 広域連携検討部会	
			観光マップダウンロード	○広域観光を支援するルートマップのダウンロード	○	—	○		
		門前今昔物語	今昔写真	○門前、永平寺の昔の風景、現在の風景を地図上にプロット	○	○	—	門前観光協会	
	学ぶ	永平寺の歴史	永平寺の伽藍	○永平寺の伽藍、その他施設などを紹介	—	○	—	大本山永平寺 門前観光協会	
			永平寺の年間行事カレンダー	○永平寺の年間行事をカレンダー形式で情報提供 ○行事の風景写真を紹介	—	○	—	大本山永平寺(傘松)	
			永平寺の歴史はやわかり	○大本山永平寺の歴史、道元禅師様の足跡を紹介	—	—	—	大本山永平寺 歴史文化遺産活用検討部会	
		伝承	伝承スポットマップ	○永平寺や門前周辺におけるいわれ、言い伝え、故事等をマップ上に情報提供	○	○	—	門前観光協会 歴史文化遺産活用検討部会	
		禅を学ぶ	禅の作法 精進料理	○禅の作法を紹介 ○精進料理のレシピ集を写真で情報提供	—	—	—	大本山永平寺(傘松) 門前観光協会	
	食べる		お食事 喫茶 おそば	○お店の位置、営業時間、お勧め料理を紹介 ○割引チケットのダウンロード	—	○	○	門前観光協会	
	買う	特産品紹介	特産品	○永平寺町及び周辺の特産品を紹介	—	○	—	門前観光協会	
		お店紹介	店舗紹介、15秒お店CM	○お店の位置、営業時間、お勧め商品を紹介	—	○	—	門前観光協会	
	イベント		年間イベントカレンダー これまでのイベント内容の紹介	○門前の年間イベントをカレンダー形式で情報提供 ○これまでのイベント風景写真を紹介	—	○	—	門前観光協会	
	トピックス		新着情報	○イベント開催お知らせ、開花情報、日常の出来事等を紹介	—	○	—	門前観光協会	
	交通アクセス	アクセスルート 駐車場、トイレマップ	アクセスルート、所要時間 直行バスの時刻表、運賃 電車乗り継ぎ時刻表、運賃 町営駐車場の位置、営業時間、料金 公共トイレの位置	○公共交通機関、車のルート・所要時間を、地図を用いて情報提供 ○電車乗り継ぎルートと時刻表を情報提供 ○地域の駐車場マップをダウンロード	○	—	○	門前観光協会	
	取組広報	『禅の里』まちづくり実行委員会	概要	目的、構成	○『禅の里』まちづくり実行委員会の概要、構成を紹介	—	—	—	実行委員会
			取り組み紹介	かわら版ダウンロード 部会活動報告 今後の取り組み予定	○委員会、各部会の活動状況を紹介	—	—	○	実行委員会

2) ICカードのデザイン

ICカードは、永平寺唐門、山門、冬の燈籠まつりの雪だるまの3種類を作成した。また、裏面には、利用方法を明記した。

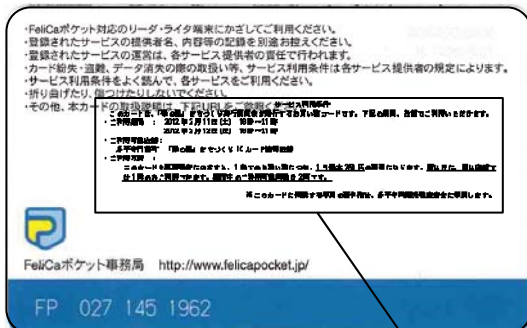
<デザイン1> 唐門



<デザイン2> 山門ライトアップ



<デザイン3> 雪だるま



サービス利用条件

このカードは、『禅の里』まちづくり実行委員会が発行するお買い物カードです。下記の期間、店舗でご利用いただけます。

- ・ご利用期間 : 2012年2月11日(土) 18時~21時
2012年2月12日(日) 18時~21時

- ・ご利用可能店舗 : 永平寺門前町 『禅の里』まちづくりICカード協賛店舗

- ・ご利用方法 : このカードを専用端末にかざすと、1店でお買い物につき、1日最大250円の割引になります。同じ日に、同じ店舗では1回のみご利用できます。期間中のご利用可能回数は2回です。

※このカードに掲載する写真の著作権は、永平寺町観光物産協会に帰属します。

デザイン2、3のみ


デザイン1 : このカードに掲載する写真の著作権は、大本山永平寺に帰属します。

図 3.3 ICカードのデザイン

3) 広報・周知

利用者に対しては、カード配布時に利用方法を説明したチラシを配布することとした。

また、協力店舗に対しては、カードリーダー取り扱い方法を説明するとともに、ポスターの配布を行った。



IC お買い物カードの 使いかた

「禪の里」まちづくり実行委員会では、イベント開催による集客効果や、イベント開催やまちづくりに関するニーズの把握などを目的として、調査を行っています。この調査の一環として、2012年 冬の燈籠まつりの開催中に、永平寺門前で使える500円分のIC お買い物カードを発行しています。


ご利用上の注意

1 協賛店^(※)でのお会計時に、お店の人にカードを見せます。

(※) 協賛店は裏面をご覧ください。

2 専用端末に、カードをかざします。

3 “シャラン”と音が鳴ると250円分のポイントがカードから引き落とされ、商品が250円引きになります。



ビビッ


その他、下記のサービス利用条件をよく読んでお使いください。

サービス利用条件


「禪の里」まちづくり実行委員会が発行するIC お買い物カードは、下記の期間、店舗でご利用いただけます。

- ・ご利用期間 : 2012年2月11日(土) 18時~21時
2012年2月12日(日) 18時~21時
- ・ご利用可能店舗 : 永平寺門前町 「禪の里」まちづくり IC カード協賛店舗(裏面に記載)
- ・ご利用方法 : このカードを専用端末にかざすと、1店でのお買い物につき、1日最大250円の割引になります。同じ日に、同じ店舗では1回のみご利用できます。期間中のご利用可能回数は2回です。

平成23年度文化庁補助事業「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」



IC お買い物カード 協賛店マップ



IC お買い物カードが使えるお店

● 一休	● 井の上	● かいど
● 山楽亭	● 田中屋	● 大関
● ごとう	● 東喜家	● 大栄
● 山田みやげ店	● ほっきよ荘	● 坂
● なかむら	● あげ川	● 山川
● 山俣	● 山口みやげ店	● てらぐち

ポスターが目印!

IC お買い物カード
つかえます




図 3.4 カード利用説明チラシ



図 3.5 ポスター



山川



山田みやげ店



田中屋

図 3.6 ポスター掲示店舗写真

3.2.2 調査実施

豪雪の影響により冬の燈籠まつりが中止となったため、以下の対応を行った。なお、中止に伴いカード裏面、チラシのサービス利用状況等の記載変更を行った。

表 3.5 調査方法の概要

実施日	実施概要
2月11日	講演会参加者に対してのみICカードを配布、講演会・万灯供養終了後、17:30～19:00(店舗終了まで)において、調査を実施
2月26日	町営第一駐車場で行われた交通安全キャンペーン(ドライバーへの注意喚起、お札・生姜湯配布)時にICカードを配布、調査を実施

1) 協力店舗

協力店舗については、門前第一駐車場から大本山永平寺までの門前通りに面する26店舗(理髪店、仏具店等も含む)のうち、17店舗について協力を得た。



図 3.7 協力店舗位置図

3.2.3 調査結果

2月11日、2月26日の利用状況を以下に示す。

1) 配布枚数と利用回数

- 配布枚数に対して、1回以上利用した割合は2月11日で38.0%、2月26日で55.2%
- ICカード利用回数（配布枚数×2回：2月11日484回、2月26日620回）の利用状況についてみると、2月11日で約3割、2月26日で約4割の利用率

表 3.6 配布枚数と利用回数

利用日	配布枚数・配布場所	利用回数
2月11日（土） 17:30～19:00	配布枚数:242枚(484回) (勅使門73枚 山門ライトアップ87枚 雪だるま82枚) 配布場所:大本山永平寺吉祥閣内(講演会受付)	92枚(38.0%) 138回(28.5%)
2月26日（日） 10:00～17:00	配布枚数:310枚(620回) (勅使門100枚 山門ライトアップ105枚 雪だるま105枚) 配布場所:町営第一駐車場	171枚(55.2%) 245回(39.5%)

2) 店舗別利用状況

全体利用状況を見ると、大本山永平寺に近い店舗（てらぐち、山口みやげ店、山恍）団体利用の多い店舗（ほっきょ荘）バス停に近い店舗（井の上）での利用が多くなっている。

その中で、最も利用が多かった店舗は、店前で焼きダンゴを販売していた山恍となっており、2日間の全利用回数の3割近くを占める結果となった。

同日ともに降雪があり、手軽な値段で購入できる暖かい食べ物へのニーズが高かったためと想定される。

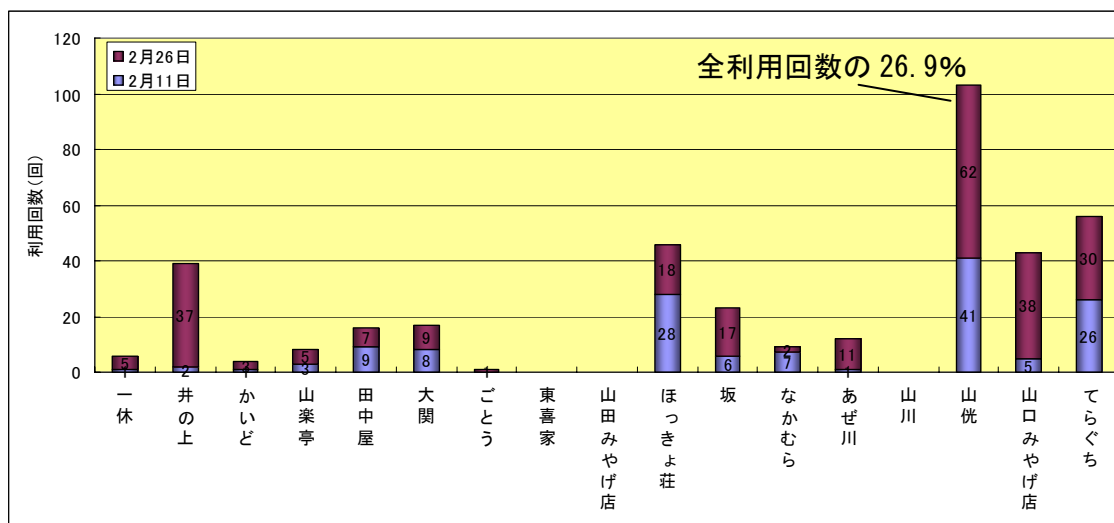


図 3.8 利用日別利用回数

3) 利用回数別利用状況

今回1枚のICカードで2店舗利用可能な設定で調査を行ったが、利用回数の約7割が1店舗での利用という結果となった。利用方法による周遊効果は3割程度であり、各店舗においてニーズの高い商品の提供とあわせて行う等の差別化を行うことが必要である。

店舗回数別の利用状況を見ると、大本山永平寺に近い店舗に初回利用が多くなっており、観光客の流れによる影響が顕著となっている。特に観光客主体に配布した2月26日はその傾向が高くなっており、永平寺に近い店舗に初回利用、遠い店舗に二回目利用が多くなっている。

初回利用の多くは駐車場併設店舗となっているが、駐車場を保有していないが飲食併設店舗（大関）にも初回利用が見られる。

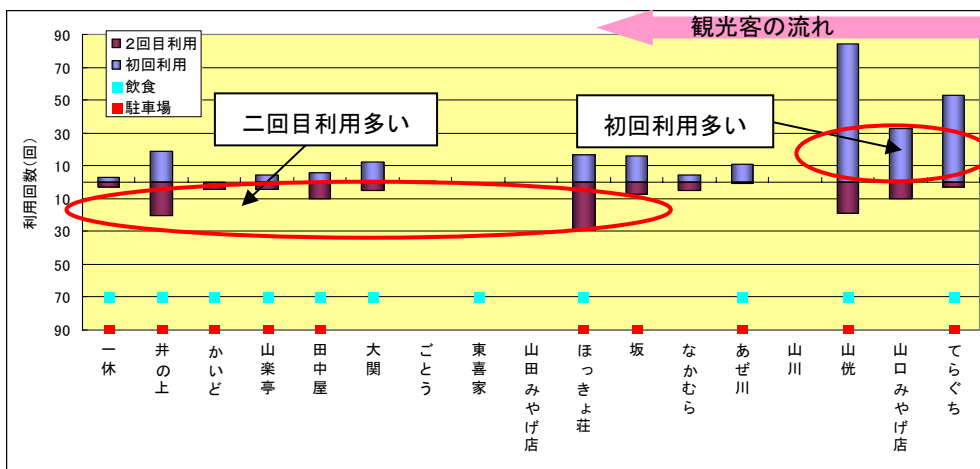
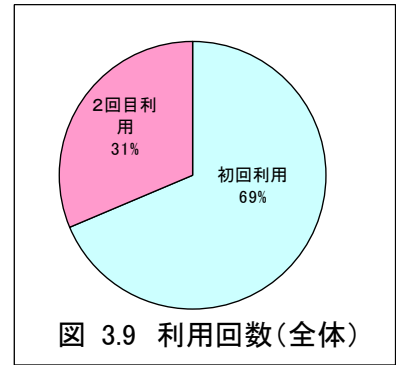


図 3.10 店舗別利用回数別利用状況(全体)

4) 周遊効果

2回目利用者を対象に、店舗の移動状況について整理を行った結果、2回目利用店舗数は、初回利用回数の多い店舗ほど多くなっており、初回利用回数が最も多い山伏で10店舗、てらぐちで7店舗、井の上、山口みやげ店で5店舗となっている。

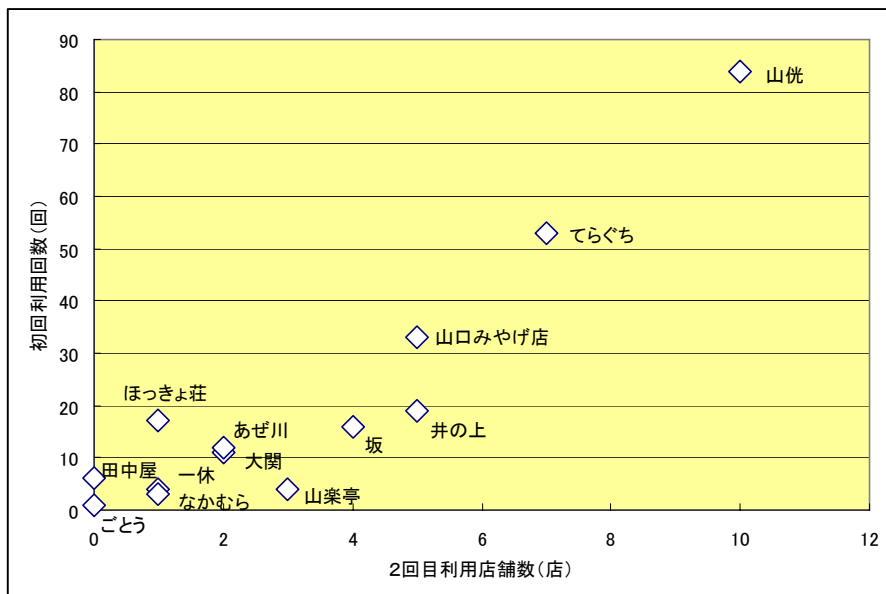


図 3.11 周遊効果(全体)

観光客の流れから、大本山永平寺に近い店舗（てらぐち、山惣、山口みやげ店）は、バス停に近い店舗まで大きく波及しているが、バス停に近い店舗（井の上）は、近隣の店舗への波及となっている。

5) 調査の様子



図 3.12 調査の様子

3.2.4 今後の展開

来訪者のほとんどが自動車または団体バス（路線バス含む）を利用して来訪する当該地域は、門前店舗の駐車場や永平寺前の駐車場を利用し、永平寺を参拝、その後門前をまわるのが来訪者の基本ルートとなっている。

そのため、現状では永平寺から駐車した店舗までで散策を終了している来訪者が多く、永平寺に近い店舗の利用が多い傾向にある。

今回の調査結果は、上記現状を定量的に表現した結果となっており、今後、周遊を促すためには、以下に示す事項が必要である。

■来訪者ニーズにあった商品やサービスの提供

今回の調査では、全体の3割近い利用者が焼きダンゴを販売している店舗を利用した結果となっており、来訪者に立ち寄ってもらうための方法としては、ニーズにあった商品やサービスの提供を行うことが、店舗の立地場所に係わらず重要であることを示唆している。

来訪者ニーズの的確な把握や新たな商品やサービスの開発には労力（コスト）を必要とするが、実施すれば利用店舗の増大、周遊の拡大が期待されることから、今後、取り組んでいくべき事項であると考える。

■商品・サービスの差別化と積極的な情報提供

今回の調査では、2店舗活用できる仕組みとしたにも係わらず、約7割の方が1回しか使わなかった結果となった。1店舗の利用金額が250円で小額であったこともあるが、どの店舗も同様な商品・サービスを提供しているため2店舗目を利用する必要性がなかった（1店舗で完結してしまう）とも捉えることができる。そのため、各門前店舗が特色ある商品・サービスを提供し、差別化を図るとともに、例えばお店紹介マップなど、門前全体として来訪者に積極的に情報提供を行うことが必要である。

■『禅の里』の多様性を積極的に活用

今回の調査では、門前店舗を中心としたが、当該地域は、歴史建造物、歌碑や言い伝えスポット、川のせせらぎや滝の音、可憐な草花など歴史・文化、自然を含めた五感に響く多様性を有する地域であり、これらを積極的に活用することにより周遊の拡大が期待される。そのため、『禅の里』としての多様性を積極的に活用し、四季毎や歴史毎の散策マップなど来訪者に積極的に情報提供を行うことが必要である。

■イベント等による効果の検証、成功体験の共有

今回の調査では、現況を定量的に再現した結果を得ることができた。今後、この結果を基礎として、イベントや商品・サービスの提供、情報提供の積極的な実施を行い、効果を確認すること、加えて『禅の里』全体として成功体験を共有することが必要である。